# リスクコミュニケーションに係るこれまでの取組と今後

県や市では、県民が正しい情報に基づき、リスクを適正に評価し、合理的な選択と行動を行うことができるよう、情報提供・情報共有などコミュニケーション(リスクコミュニケーション)の充実に努めるため、これまで以下のような取組を行ってきた。

## 滋賀県の取組

## 1 知識の普及と情報共有

- ・ 出前講座の実施
- フォーラム、シンポジウムの開催
- 「滋賀県の原子力防災」(パンフレット)の配布
- 住民参加による防災訓練の実施
- 滋賀県原子力防災研修会の開催

## 2 環境放射線モニタリングの情報提供

- HPやびわ湖放送のデータ放送による放射線測定値の公開
- 長浜市役所、高島市役所にモニターを設置し放射線測定値を表示
- 長浜市、高島市の支所等への放射線量率データパネルの設置
- UPZ圏内幼・小・中学校への簡易サーベイメータの配布



## 長浜市の取組

# 1 知識の普及と情報共有

- 原子力防災出前講座の実施
- 原子力防災講演会の開催
- 原子力防災ハンドブック の配布
- ・広報誌(広報ながはま)による知識の普及



## 2 環境放射線モニタリングの情報提供

• 環境放射線測定の実施と公表

# 高島市の取組

### 1 知識の普及と情報共有

- 原子力防災出前講座の実施
- ・高島市原子力防災 フォーラムの開催
- 小中学生を対象と した原子力防災出 前授業の開催



原子力防災職員研修会の開催

## 2 環境放射線モニタリングの情報提供

• 環境放射線測定の実施と公表

#### Oこれまで…

放射線に関する基礎知識や避難・屋内退避時の注意点を中心に、知識の普及を行ってきた。

#### 〇住民意向調査では…



避難や屋内退避といった放射線防護対策だけでなく、避難の方法や経路、避難所での生活など、さらに具体的な行動について知りたいとの意見が多数みられた。

#### 〇次年度以降



これまでの取組に加え、広域避難計画の策定を踏まえた避難の方法や経路などについて、理解を深めていただく必要がある。

### 1 滋賀県広域避難計画の概要

#### (1) 避難の単位

緊急時モニタリング結果をもとにした国の避難指示が、小学校単位で行われることを前提 に、避難行動は自治会区単位で行うことを原則とする。

## (2)避難先

- ①長浜市および高島市の滋賀県版UPZ内住民を対象に、避難先の事前調整を実施。
- ②避難先の検討に当たっては、県内避難を優先
- ③複合災害などにより県内での受入れが困難な場合は、県外へ避難受入れを要請。

## 【県内】

大津市、草津市、甲賀市および東近江市を中心に協議を行い、状況に応じて他の市町 にも協力を求める。

### 【県外】

関西方面⇒大阪府(和歌山県)※関西広域連合におけるカウンターパート中部方面⇒災害時等応援協定書(中部9県1市)に基づく、応援要請

## (3)避難手段

- ①原則として、バス等の公共輸送手段を活用
- ②自家用車利用の抑制

(自家用車利用は、時間的制約がある中での緊急避難、自家用車の利用が最も合理的と 認められるよう要配慮者等に限定)

#### (4) 段階的避難の検討

- ①滋賀県の地理的条件や、国・県が行った放射性物質拡散予測結果から考えると、一定の時間的猶予があることを前提に、段階的避難を計画的に実施する。
- ②県外からの避難者が県内を通過することを想定した広域連携を行う。

## 2 避難時間推計(ETE)の結果概要

- (1) ETEにおいて、自家用車利用による課題を検証
  - ①交通渋滞
  - ②駐車場の確保
  - ③交通事故のリスク
  - ④ガソリンの確保(給油)
  - ⑤避難経路見失いによる迷走

#### (2) 推計結果の活用

- ①渋滯予測結果(避難時間推計時間、最大交通密度等)
- ②交通渋滞の動画活用
- ③広域避難計画の住民向けチラシ(案)



